

目的 一定量のカーボンブラックによる汚濁浴中での各種繊維布の再汚染性と、家庭洗たくによる再汚染性をいづれも10回の繰返し洗浄による累積再汚染率をみ両者の傾向を検討した。また家庭洗たく時の浴比の再汚染におよぼす影響についてもみた。

方法 試布はモメン、レーヨン、絹、羊毛、アセテート、ナイロン、ポリエステル、アクリル布で、12×15cmに切り精練後、ラノリン0.5、10%溶液中で1分浸漬処理したものと無処理布と、6×25cmに切り洗浄した。洗浄条件は弱アルカリ性洗剤0.2%

浴量50mlにカーボンブラック5mgを入れ、攪拌型洗浄試験機で20分、温度35±1℃で洗浄す。日かぎ2回、再汚染率(%) = $R_0 - R_w / R_0 \times 100$ 、ここに R_0 …原布反射率、 R_w …洗浄後

布の反射率、実験2.、試布は前と同じ、37×37cmに切り精練後実験に供した。被洗物1kg、弱アルカリ性洗剤0.17%、浴比1:15、1:30、渦巻型電気洗たく機で10分水道水の常温、日かぎ2回、日かげ干し、乾燥後5×5cmに2枚切り取り再汚染率を求める。これを10回繰返す。

結果 実験1の再汚染性は絹、アセテート、ナイロン、羊毛が著しく、レーヨン、ポリエステル、アクリルは僅かである。洗浄回数が増すと再汚染性も次第に増加する。

油分付着布の再汚染性は試布により異なり、絹、ナイロン、アセテートは却って低下している。実験2では各試布とも再汚染性が低いが、絹は他に比し僅か高い。浴比の影響は明かでないが、絹だけは浴比の小さいほうが再汚染性が高い。両実験の再汚染傾向には完全一致はみられなかった。